

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 20 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20500896

研究課題名 (和文) 大都市近郊農村におけるグリーントリフィケーションの創成とその持続性に関する研究

研究課題名 (英文) Development of greentrification and its sustainability in the metropolitan fringes

研究代表者 菊地俊夫 (KIKUCHI TOSHIO)

都市環境科学研究科 教授

研究者番号：50169827

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：地理学・地理学

キーワード：グリーントリフィケーション, ポスト生産主義, 大都市圏, 緑地環境, 農村再編, 持続性, 地域づくり

1. 研究計画の概要

(1) 研究の背景

ポスト生産主義の農村研究の動向のなかで、農村の生態環境 (農地、牧草地、林地などを含めて) の再編に関する議論の必要性が 1990 年代後半に提案された。その結果、農村の生態環境としての緑地空間の再編を議論するグリーントリフィケーション (greentrification) のフレームワークが示された。ヨーロッパにおけるグリーントリフィケーションの議論は、条件不利地域における不耕作地や荒廃林地の美化や有効利用を通じて、あるいは大都市近郊農村における緑地環境の保全と適正利用を通じて行われ、緑地や農地を含む農村の生態環境が経済環境と社会環境に相互関連していることを明らかにしてきた。このように、農村の生態環境を中心にと経済環境と社会環境を関連づけることにより、農村再編の議論はより实际的で具体的なものとなった。しかし、農村の生態環境と経済環境、および社会環境をどのように関連づけるかの議論は現在まで残された課題となっており、その課題を明らかにすることが本研究を始める契機となった。

(2) 研究目的

本研究は大都市近郊農村を対象にして、農地や谷戸、および里山や林地などの緑地空間の再編をグリーントリフィケーションとして捉え、その創成メカニズムと持続性を明らかにすることを目的としている。グリーントリフィケーションとは「緑地空間の再編・美化」や「緑地空間価値の高度化」ともいわれるもので、その概念の世界的な浸透は農村や農山村における緑地空間の経済的な価値だけでなく、非経済的な価値を見直す機運と呼応している。

(3) 研究内容と手順

グリーントリフィケーションの実態を把握し、そ

の創成メカニズムと持続性を明らかにするため以下の手順で研究を進める。

- ①東京大都市圏におけるグリーントリフィケーションの実態を把握するため、土地利用データからグリーントリフィケーションの類型化を行う。また、グリーントリフィケーションの類型を一般化するため、世界の主要な大都市圏におけるグリーントリフィケーションとの比較検討も随時行う。
- ②大都市圏におけるグリーントリフィケーションの実態を実証的に調査し、グリーントリフィケーションの創成メカニズムを明らかにする。実証研究の対象はグリーントリフィケーションの類型に基づいて決定し、内外の事例研究に基づく地域比較も行う。
- ③グリーントリフィケーションの創成メカニズムが農村地域にどのような効果や影響をもたらすのかを事例地域に基づいて実証的に明らかにする。その際、グリーントリフィケーションの担い手や持続性に注目し、それらが農村再編にどのような効果や影響をもたらすのかを検討する。
- ④グリーントリフィケーションの創成メカニズムとその持続性の一般化を事例研究の比較検討に基づきながら行うとともに、グリーントリフィケーションによる農村再編や地域づくりの効用も一般化する。

2. 研究の進捗状況

研究の手順の①については、主に 2008 年度に実施し、大都市圏におけるグリーントリフィケーションは近郊型と近郊外縁型、および遠郊型に分類できた。近郊型は都市化にともなう農村環境の縮小のなかで、緑地空間の保全と多機能化を意識したグリーントリフィケーションが行われていた。遠郊型は過疎化・高齢化による緑地空間の荒廃が

特徴となり、それを抑制するグリーントリフィケーションが行われていた。他方、近郊外縁型は都市化と過疎化・高齢化の両面による緑地空間の縮小がみられるが、反都市化によるグリーントリフィケーションで特徴づけられた。このような傾向は先進国の大都市圏に共通した現象であることも確認した。

研究の手順の②については、主に 2009 年度に実施した。グリーントリフィケーションの類型に基づいて抽出した事例地域を実証的に研究した。例えば、近郊型では狭山丘陵のトトロの森を調査研究し、そのグリーントリフィケーションの創成メカニズムにはルーラリティ（農村らしさ）とアーバニティの相互関係が必要であり、ルーラリティを構成する緑地などの要素も他の要素と相互関連することにより保全され適正利用されることが明らかになった。このような創成メカニズムはそれぞれの類型や外国の大都市圏でも確認できた。

研究の手順の③については、主に 2010 年度に実施した。グリーントリフィケーションがルーラルツーリズムとフードツーリズムと結びつき、農村再編や地域振興の原動力となっていることを明らかにした。例えば、ドイツのフォアアルペン地域ではグリーントリフィケーションによる農村環境の整備が農家民宿による観光の営力となった。

研究の手順の④は 2011 年度に実施する予定であり、データ等の収集は終わっている。今後、補足調査を行うことにしている。

3. 現在までの達成度

① 当初の計画以上に進展している。

(理由)

本研究の主眼は、グリーントリフィケーションの創成メカニズムを明らかにすることと、グリーントリフィケーションが農村再編や地域振興にどのような効果や影響をもたらすかを実証的に明らかにすることである。そのような実証的な調査研究は、毎年の研究成果にも反映されているように、計画以上の成果を収めている。また、研究成果も当初計画で予想したもの以上であり、グリーントリフィケーションにおけるソーシャルキャピタルの役割や、ルーラルツーリズムにおけるグリーントリフィケーションの効用など新たな知見も得ることができた。

4. 今後の研究の推進方策

研究成果を内外に発信するため、2011 年の日本地理学会や 2012 年にドイツ・ケルンで開催される国際地理学会では発表する。加えて、研究成果をまとめた出版物を刊行することも考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 14 件)

① 菊地俊夫・山本 充：ドイツ・バイエルン州におけるルーラルツーリズムの発展と農村空間の

商品化. 観光科学研究, **4**, 15-27, 2011, 有

② Kikuchi, T.: The commodification of rurality and its sustainability in the Jike area, Yokohama City, the Tokyo metropolitan Fringe. *Geographical Review of Japan Series B*, **82**(2), 89-102, 2010, 有

③ 菊地俊夫: オーストラリアにおける観光とその地域的性格. 新地理, **57** (2), 44-55, 2009, 有

④ 菊地俊夫: 地理学におけるルーラルツーリズム研究の展開と可能性—フードツーリズムのフレームワークを援用するために—. 地理空間, **1**, 32-52, 2008, 有

⑤ Kikuchi, T.: Sustainable development of rurality-based ecotourism in outer urban fringe of Tokyo: a case study of Totoro forest. *Global Environmental Research*, **12**, 145-152, 2008, 有

⑥ Kikuchi, T.: Recent Progress in Japanese Geographical Studies on Sustainable Rural System: Focusing on Recreating Rurality in the Urban Fringe of the Tokyo Metropolitan Area. *Geographical Review of Japan*, **81**, 336-348, 2008, 有

[学会発表] (計 8 件)

① 菊地俊夫: 大都市近郊の横浜市寺家地区におけるルーラリティの商品化とその持続性. 日本地球惑星科学連合, 2010 年 5 月 24 日, 幕張メッセ.

② 菊地俊夫・小原規宏: 茨城県北部金砂郷地域におけるそばのブランド化とフードツーリズムの可能性. 日本地理学会秋季学術大会, 2009 年 10 月 24 日, 琉球大学.

③ 菊地俊夫: 東京大都市圏の近郊農村におけるルーラリティの再生とその持続システム. 人文地理学会, 2008 年 11 月 8 日, 筑波大学.

④ 菊地俊夫: 大都市近郊の横浜市寺家地区におけるルーラリティの商品化とその持続性—商品化する日本の農村空間に関する調査報告(2)—. 日本地理学会秋季学術大会, 2008 年 10 月 5 日, 岩手大学.

[図書] (計 5 件)

① 菊地俊夫・有馬貴之, 古今書院, 乾燥地の資源とその利用・保全, 2010, 143-160

② 菊地俊夫, 朝倉書店, 朝倉世界地理講座第 15 巻 オセアニア, 2010, 149-164

③ 田林 明・菊地俊夫・松井圭介, 農林統計出版, 日本農業の維持システム, 2009, 502

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]